

本日の演目より

能「吉野天人」 よしのてんにん
吉野の花見に訪れた鄙人ウキ、ワキツレがこの辺りで花を友として暮らしているという高貴な女性シテと出会う。実はその女性は天人で、ここで一夜信心すれば真の姿で現れ「五節の舞」を見せようと言って姿を消す。その夜、空から音楽が聞こえ良い香りが漂うと、天人が現れて花に戯れ美しい舞を舞う。舞台上には桜の立木が置かれ吉野の春景色へ誘います。



能「羽衣」 はごろも
漁師の白龍ウキは三保の松原で美しい衣をみつめて持ち帰ろうとするが、それは天人の羽衣だった。衣がないと天上に帰れないと嘆き悲しむ天人シテに、白龍は「天女の舞」をみせてくれたら返すと約束する。天人はそれを承諾し、返してもらった衣をまとい優美な舞を舞うと、天へと帰っていく。有名な「羽衣伝説」を題材にした、美しく華やかな名曲です。



能「船弁慶」 ふなべんけい
都を追われ大物浦に着いた源義経。子方は武蔵坊弁慶ウキと相談し、同行していた静御前、前シテを都へ帰す決断をする。静は最後の宴で気丈に舞を舞い涙する。義経らが西国へと船を出すとき、風になり平知盛の亡霊(後シテ)が襲いかかってくるが、弁慶が祈り伏せ怨霊は消え失せる。シテは前場・後場で全く異なる役柄を演じ分け、義経役の子方も登場する賑やかな一番。



能「清経」 きよつね
平家の前途に絶望して入水した平清経の遺髪を届けに家臣淡津三郎ウキが妻ウキを尋ねる。自分を残し自害したことを受け入れられない妻の夢に清経の亡霊シテが現れ、敗戦に次ぐ敗戦、宇佐八幡の神にも見放されて死を選んだいきさつを物語り、修羅の苦しみを見せる。修羅物ながらも夫婦の情を描き、平家の公達こそその雅を感じさせる世阿弥の作品。



国立能楽堂アクセス

JR 総武線「千駄ヶ谷駅」より徒歩約5分
都営大江戸線「国立競技場駅」【A4】出口より徒歩約5分
東京メトロ副都心線「北参道駅」【出口1】より徒歩約7分

青嶂会 味方 玄 (みかた しずか)

京都市上京区寺町通鞍馬口下ル高德寺町355-5 TEL 075-213-1774

<http://theatrenoh.com/>

◎ 主催者の許可なき写真撮影・録音・録画は一切ご遠慮ください。

◎ 会場内では、携帯電話・スマートフォンなどの電源はお切りいただくか、鳴動しない設定をお願いいたします。

◎ 素謡は一部省略する場合がございます。

◎ 各演目の上演予定時間はあくまでも目安です。あらかじめ余裕をもってお越しください。

【入場無料・御来場歓迎】
平成二十九年六月三日(土) 午前十時始

「能楽観世流」

東京青嶂会

於 国立能楽堂
東京都渋谷区千駄ヶ谷四一-八一-
電話 〇三(三四二二三)一三三一(代)
主催 青嶂会 味方 玄

ごあいさつ

孟夏の候

皆さまにはますますご健勝の御事とお慶び申し上げます

この度初めて東京にて「青嶂会」を開催させていただく運びと相成りました

京都より片山九郎右衛門先生

東京の観世鏡之丞先生 観世喜正先生はじめ諸先生 諸先輩にご出演賜り また

社中が師事させていただいているお雛子の先生方にお相手をお願いし

おウキお狂言の先生にもお助けいただき

東京青嶂会会員一同 鎌倉 京都 福井 大阪の会員も応援に駆けつけ

日ごろの稽古の成果を發揮すべく 懸命に勤めさせていただきます

どうか ご高覧賜りますようお願い申し上げます

青嶂会主宰

味方 玄